

平成 30 年度第 1 回 横浜市建築物環境配慮評価認証委員会 会議録		
日時	平成 31 年 2 月 18 日 (月) 午後 2 時から午後 4 時まで	
開催場所	J Nビル 14 階 A B 会議室	
出席者	委員	岩村 和夫 会長 秋元 孝之 副会長 岩田 利枝 委員 遠藤 純子 委員
	説明者	(計画概要の説明) 鹿島建設 株式会社
	事務局	建築局建築指導部建築企画課 畠建築指導部長 正木建築環境担当課長 田島担当係長 山田、大崎
欠席者	委員	吉崎 真司 委員
開催形態	非公開	
議題	資生堂グローバルイノベーションセンター について	
決定事項	S ランクにて認証	
議事 (概略)	<p>1. CASBEE の評価全般について</p> <p>(1) Q2-1.2.3 内装計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CASBEE において、主観的な評価はしない。ここでいうコンセプトは、客観的材料を踏まえた構成であることが重要。 ・利用者の行動に着目したコンセプトと内装計画を評価するためには、社会実験等を基に、提案内容を具体的に示していくことが必要。 <p>(2) Q3-1 生物環境の保全と創出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地とその周辺にある生物環境に関する立地特性は把握されている。 ・埋立地における敷地内の生物資源等の保存、復元の取組を評価するためには、当該敷地を拠点とした将来的な生物環境の目標やビジョンとそれに対する取組を示すことが必要。 ・野生小動物の生息域の確保に配慮した緑地づくりを評価するためには、誘導する野生小動物を明らかにし、動物の行動や特性を勘案した樹種の選定や配置、デザインが必要。 <p>(3) Q3-2 まちなみ・景観への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなみが完成していない敷地条件の中で、周辺との「調和」が高い評価を得るためには、将来像を見据えた景観の提案や、歴史等を踏まえた明確なコンセプトに基づいたデザインが必要。 ・夜間照明計画は、建物内部からの光や間接照明などにより、夜間景観を創出している。 <p>(4) Q3-3.1 地域性への配慮、快適性の向上快適性の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設提供による地域貢献については、一般開放の目的や対象、開放時間が限定的であることなどから、評価できない。 <p>2. 評価された主な環境配慮項目について</p> <p>(1) 高性能外皮等による省エネルギー性への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスキンファサードとその自然排熱機構により建築物の熱負荷を低減している。また、CO2 濃度やエネルギー消費状況をモニタリングし、 	

	<p>設備機器を制御することで、省エネルギー化を図っている。</p> <p>(2) 賑わいと歩行者の安らぎの場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈出会う〉〈知る〉〈体験する〉をテーマとしたコミュニケーションエリアや、緑豊かなコモンスペースを設け、賑わいと歩行者の安らぎの場を創出している。 <p>(3) 夜間のまちなみを創出する照明計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物内部から漏れ出す光や LED 間接光の採用により、眩しさを抑制しつつ、夜間のまちなみ、景観を創出している。時間帯別に調光し、省エネルギー性にも配慮している。 <p>(4) 災害時の地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、帰宅困難者を受け入れ可能な計画としている。また、社員用に加え、帰宅困難者用の防災備蓄品を確保している。
資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 建築物環境配慮評価認証計画書 2 設計趣旨及び建築計画概要 3 CASBEE 建築(新築)評価マニュアル(2014年版) 抜粋

※本会議録は、平成 31 年度 3 月 8 日各委員に確認を得、確定しました。